

「Acty ナース」さらなる飛躍

■看護師育成

次に看護師がどう育成されていくかを紹介します。前述したようにNHOでは、附属看護学校→NHOの病院と継ぎ目なしの教育体制を敷いています。

岡山市にある岡山医療センターの大研修室で、昨年4月に就職した新人看護師による白熱の議論が続いていました。



新人看護師研修の様子
(岡山医療センター)

「あの容器は子供が誤って転倒させる恐れがあるよね」「確かに大人なら心配ないけど、子供は何をするか分からないものね」これは病院内で起こりそうなトラブルを積極的に見つけ出し、事故の未然防止に結び付ける

「KYT（危険予知トレーニング）」と呼ばれる研修の様子です。教育担当の先輩看護師を交えて、チームごとになぜ危険なのか、その防止策はといった掘り下げた議論を重ね、最後にどうすべきかの結論を導きだします。

同医療センターで働く約 750 人の看護師を統括する岡田久香看護部長は「安全な看護を提供するうえではトラブルを事前に察知する能力とか問題解決能力、いわゆる考える力が非常に大事になります」と説きます。この研修はそれを養うための数多くのプログラムの一つです。



新人看護師研修の様子
(岡山医療センター)

最初のハードル

NHOはあるべき看護師像を明確にしています。それは「患者の尊厳を守り、理論と技術をもって、創造し、積極的に行動できる看護師」です。このキーワード（Art＝技術、Create＝創造、Theory＝理論）の頭文字から、目標とする看護師を「ACTy（アクティーン）ナース」と呼び、看護学校卒業から概ね5年程度で到達するよう指導しています。そのためNHOの病院に就職すると「新人コース」「実務コース」といった教育研修が待ち構えています。ACTy ナースは、最初のハードルを飛び越えたにすぎないのです。岡田看護部長は「質の高い医療・看護を提供していくためには看護師の質も高めなければなりません。そのうえで特にポイントになるのはジェネラリストをどう育成するかでしょう」と分析し、2017年度に改訂されるACTy ナースVer.2での教育計画を考えています。

NHOの看護職員能力開発プログラム

ACTy ナース(アクティナース) Ver.2 理論と技術を持って、実践し、看護を創造する ～高い倫理観に基づいて～		
1	高度な専門的知識・技術を有し、主体的に実践できる	Art Theory
2	高い倫理観に基づいた質の高い看護の提供ができる	Caring
3	多職種と協働し、看護の役割を発揮する	Teamwork
4	病院経営に参画でき、看護におけるマネジメントができる	Coordinate
5	後輩と共に学び合い、自律した看護職になる	Coaching
6	臨床看護研究ができる能力を有し、看護を創造する	Create

重要な役割担うジェネラリスト

看護におけるジェネラリストとは、多くの分野の看護経験をもち、高い知識・技術を備えている中堅から幹部に至る層です。医療・看護現場で質的にも重要な役割を担う要の人材といえます。このためACTy ナースはゴールではなく、さらなる飛躍への出発点と位置づけられます。これに沿って教育研修も上級編へと移っていきます。

丁度、この過程にある岡山医療センターの副看護師長、西井雄作さん＝写真＝は「12年間のうち10年間は手術室の担当。プロ意識をもって日々鍛錬しています」。





同じく 11 年目の
近藤裕子さん＝写真
＝は「気がついたら
頼られる立場になっ
ていたけど、責任を
果たすことがやりが

いになっています」と話します。この 2 人の
ように経験とともにプロ意識が醸成され、成
長していくのです。

看護師の育成をめぐるっては、もう一つの
動きも出ています。医療・看護の高度化、多
様化に伴って、看護師も専門的な能力を求め
られる時代になっており、こうした人材の育
成にも積極的に取り組んでいます。

特定分野のスキルを身につけ、資格認定
を受けた「専門看護師」や「認定看護師」、
一定範囲内の医療行為ができる「診療看護
師」などがそれにあたります。このため専門
的な人材育成に向け東京医療保健大学大学
院と連携するなど、看護教育の幅を広げる取
り組みも強化しています。多様な医療を提供
している N H O の強みは、看護師の育成にも
活かされています。